



Title	<紹介> 廣岡義隆著『風土記考説』
Author(s)	後藤, 京
Citation	語文. 2022, 119, p. 55
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95247
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

紹介

廣岡義隆著『風土記考説』

後藤 京

本書は総論、常陸國風土記、出雲國風土記、播磨國風土記、逸文の各章からなる一書である。

以下、目次によってその概要を示す。紙幅の都合上、細目は省略した。

はじめに／凡例

第一章 風土記総論

漢文脈と倭文脈／風土記の原形態について／原本系・副本系／風土記本文の復元について／残存本文について／風土記の文字世界―書評―／「伊香小江」と「竹生嶋」／古代の天女説話

第二章 常陸國風土記考説

「俗」字と割注について／「ころもでひつ」考／にひばりのをつくはのやま／道のくち・道のしり／『常陸國風土記』における地名掲出

第三章 出雲國風土記考説

副本としての『出雲國風土記』／蓬左文庫本『出雲國風土記』について／『出雲國風土記』の会話文体／郷家における素稿の作成／現地産品と行政文書／「嚴堂」について／仁多郡三澤郷条の複層的存在／佐太大神条をめぐって／『出雲國風土記鈔』の本文について／士清本『出雲國風土記』について／河村本『出

雲國風土記』について

第四章 播磨國風土記考説

『播磨國風土記』の国府編集／異剣譚寸考

第五章 風土記逸文考説

風土記逸文の考究／乙類風土記から甲類風土記へ／「冬菑」の語について／「海臣之勲」寸攷／「嶋子説話」―生成と展開―／二島と江川―紀行小文―

収録論文の原拠について／おわりに／書後に／要語索引

訓読（漢文脈と倭文脈）、文体（『出雲國風土記』の会話文体）、成稿過程の考察（郷家における素稿の作成）などの多様な観点から研究対象にアプローチすることで風土記のありようを有機的に浮かび上がらせる本書を、稿者は価値ある一書と考える。本書は今後の研究に新たな視角を提示するであろう。

なお、本書に収められていない風土記に関する廣岡氏の論文に「蓬左文庫本から日御倚本へ―『出雲國風土記』写本考―」（『蓬左文庫本出雲國風土記影印・翻刻』（塙書房二〇一八年）所収）があることを付記する。

（和泉書院、二〇二二年五月、六二四頁、一二、五〇〇円＋税）

（ごとう・みやこ 本学博士後期課程）